

て、一筋は今香林坊際の小橋の下を流れ、甚深きに依て舟  
 舳も入程なり。然るに金澤の町地手狹成により、御廣げな  
 されんとて、川除普請方就安に被仰付、則才川の上を掘りて  
 一瀬に落しければ、俣川あせて一瀬に成たり。依て兩川の  
 間なりし中嶋の地をば町屋に被仰付。今の河原町是なりと  
 あり。按ずるに、右香林坊際の小橋といふは、今香林坊橋  
 の邊にいにしへ才川二瀬に成り居たる比、橋を架け、小橋  
 と呼びたるものなり。古寺町小橋天神由來書に、昔才川神  
 明の向に鎮座之處、慶長十九年河原町小橋爪へ移轉仕とあ  
 り。されば一瀬になし、河原町の町家を建てられたるも、  
 慶長十九年頃ならんか。其の功に依つて河原町の役夫を賜  
 はりたりしと聞ゆ。

○鹿嶋檢校番邸

異本夜話録に云ふ。鹿嶋檢校が屋敷は、今の津田正流・石丸  
 新八の屋敷なり。檢校此の屋敷に居たる頃、權現堂丸の後  
 なる端の松を二・三本拜領仕度旨、微妙公へ奉願ける。其  
 由被聞召、易き事、切つてとらせと御意なりしに、只そのま  
 ま拜領仕度と也。其旨言上するに、何にするぞとの御尋也。

檢校申上るは、居宅の露地なる池へ月の懸りあしく、枝を  
 卸し月を請度旨申上。利常卿尤に被思召、如何やうとも檢  
 校の了簡次第と被仰出、則好みて枝を卸させけるに、案の  
 如く月のさし入宜しきよし被聞召、月の時分利常卿も被  
 爲入御覽ありしと、御馬廻岸村六右衛門いまだ若輩にて御  
 近習相勤、能覺え居たりと語れりとぞ。今按ずるに、石丸新  
 八の屋敷なりとあれば、即ち西町なり。元祿六年土帳に、  
 石丸吉之丞西町と見ゆ、享保九年土帳に、御射手二百石石  
 丸新八郎西町とあり。津田正流も醫師の中に載せられたれど、  
 居屋敷の地名を記載せず。兩人共に享保中の人にて、隣  
 家なりし事知られけり。鹿嶋檢校は拾葉名言記に、或時利  
 常卿御料理の間へ御出被成、焚火に御あたり被爲成、御  
 前に鹿嶋檢校伺公仕。大坂陣の御咄に成り、檢校に御尋被  
 遊候は、身が人数は千五百程有之と覺ると御意也。鹿嶋申  
 上るは、御人数千五百の御圍りに候へ共、前後に千三百五  
 六十程罷越と申上る。又鹿嶋申上。他國には小身者に馬扶  
 持與候。御國は左様の事不、被仰付候得共、何も馬に乗參  
 候と申上云々と見ゆ、異本夜話録に、鹿嶋檢校十老になり、

上方より度々登り候へと申越けるといへども、職に及ぶま  
 では罷登るまじく、物成は九老中間として配當候へとて終  
 に登らず。然る處職あき候ゆゑ御暇申上、上京仕り、職を  
 請取規式相濟、其年は既に暮けり。然るに其年の暮に京都よ  
 り金澤へ罷歸りける。翌年の年頭の御禮に、朔日に小松へ

○尾崎神社

惣て御出入の町人・職人御次へ罷越候て、御前の事毎日他  
 へ聞ゆるやうに被遊也といへり。

罷越登城仕たり。利常卿御覽被遊、鹿嶋何としたれば來る  
 ぞと仰せらる。檢校申上、乍憚御なつかしく奉存、職を讓  
 り隠居仕、大晦日に金澤へ罷越、夜通しに是へ參り候旨申  
 上げる。利常卿大に御感ありて、扱もく無欲なる坊主  
 め哉と仰せられ、夫れよりは別して御前の思召洩からず、一  
 刻も離れ奉らず、奉仕しけるとあり。されば拾葉名言記に  
 も、中納言利常卿御家督御拜領被遊以來、御咄衆とて有之。  
 承傳る分書付申に、津田道句、今枝宗仁、法華法印、石黒采  
 女・丸毛道和、恒川竹仁、廣橋一齋、高田慶安、篠屋宗永、中村  
 久越、佐々木道休、首には虎澤・松坂・鹿嶋・小林、此の外他  
 所より御目被下、御次まで案内なしに伺公仕者共には、本  
 阿彌一家、後藤一家の者ども、狩野・乗加・唐物屋道興、大  
 槻八左衛門・湯下屋七郎右衛門・藤重宗句、此の外にもあり。

當社は、甚右衛門坂の高、北丸にありて、東照宮と稱し、  
 俗に權現堂と呼びたる社なり。其の創立は、舊藩四世正四  
 位下權少將光高君、寛永十七年十一月酒井讚岐守を介とし  
 て、東照權現を金澤城内に勧請せん事を上申せらる。三代  
 將軍家光公則ち許可せられ、依之同十九年より神殿の造營  
 始り、翌二十年秋落成し、神籬の奉迎使として、村井兵部  
 に佐藤與三右衛門・林孫丞を添へ江戸へ被遣、八月廿日東  
 叡山常照院・松壽院及び村井兵部以下供奉して東叡山を發  
 輿、加州佐那武の神官河崎權頭、同將監の兩名、藩命に依つ  
 て上州坂本まで參向し神輿に供奉す。金澤藩御、九月十七  
 日神靈遷宮、常照院遷座式相勤め、夫れより兼勤命せられ、  
 社殿の蓋甚右衛門坂下に別當屋敷を造營ありて神護寺と號  
 し、明暦三年現米百五十石寄附せられ、常照院之を收納し  
 神動なしける處、常照院江戸へ歸り、爲代僧弟子松植院を  
 神護寺に置きたり。然るに後には金澤天台宗の寺院出雲寺